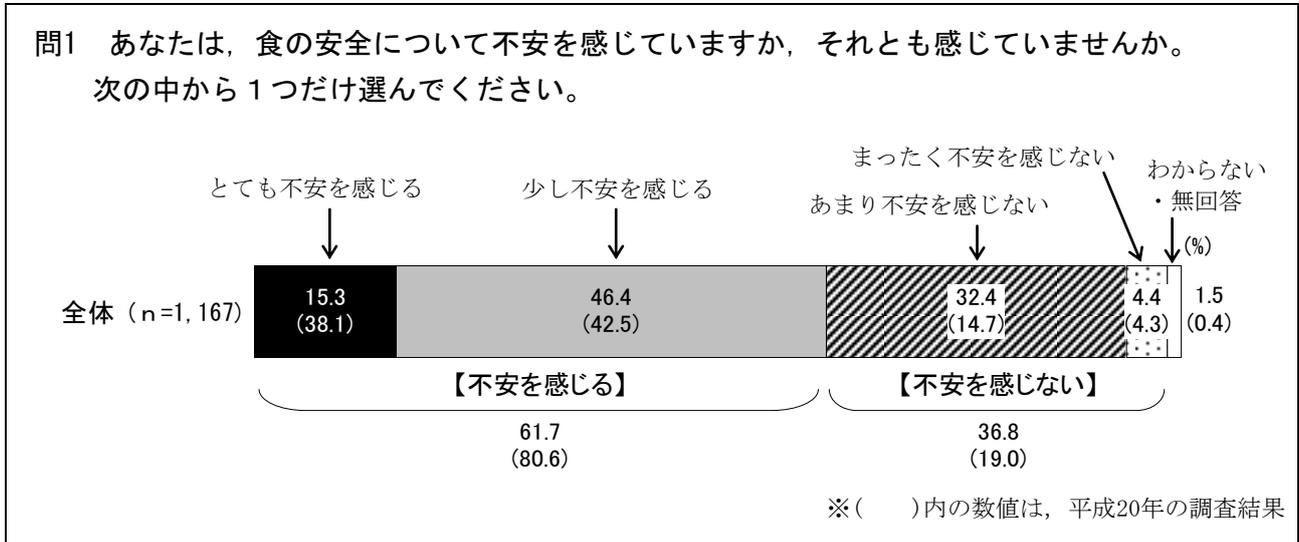


Ⅶ 食の安全

1. 食の安全に対する不安感

(1) 食の安全に対する不安感

—【不安を感じる】は6割を超える—



食の安全については、「とても不安を感じる」(15.3%)と「少し不安を感じる」(46.4%)を合わせた【不安を感じる】(61.7%)は6割を超えている。一方、「あまり不安を感じない」(32.4%)と「まったく不安を感じない」(4.4%)を合わせた【不安を感じない】(36.8%)は3割台半ばである。

前回調査と比べると、【不安を感じる】は、約19ポイント減少し、【不安を感じない】は約18ポイント増加している。

—【不安を感じる】は女性の30代、50代、60代で7割を超える—

地域別でみると、【不安を感じる】は、県央(68.6%)で約7割と最も高く、県北(61.5%)、県南(62.3%)、県西(59.3%)で6割前後となっている。一方、【不安を感じない】は、鹿行(46.6%)で4割台半ばと最も高くなっている。

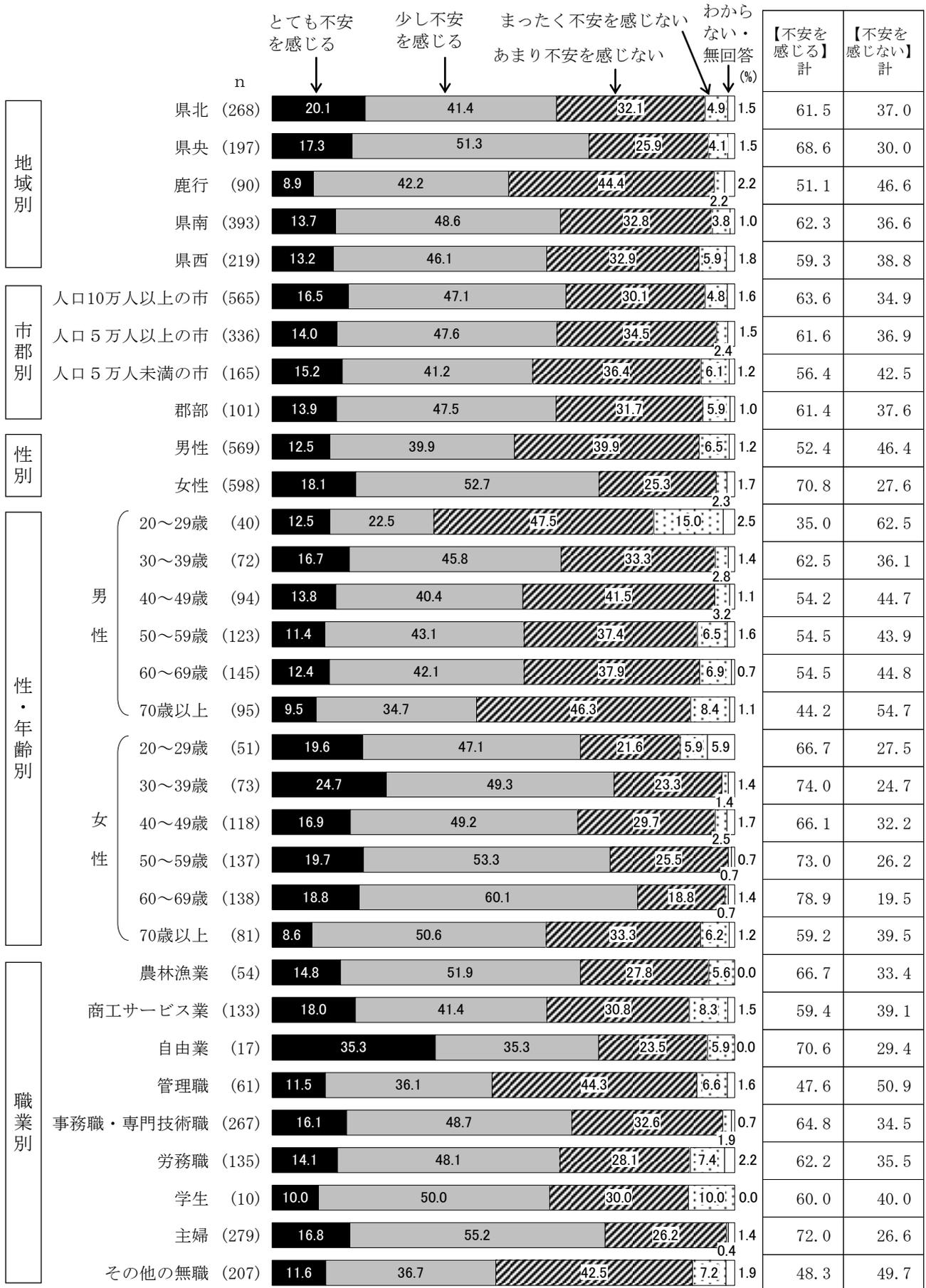
市郡別でみると、【不安を感じる】は、人口5万人未満の市(56.4%)以外の層で6割を超えている。

性別でみると、【不安を感じる】は、女性(70.8%)が男性(52.4%)よりも約18ポイント高くなっている。一方、【不安を感じない】は、男性(46.4%)が女性(27.6%)よりも約19ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、【不安を感じる】は、女性の30代(74.0%)、50代(73.0%)、60代(78.9%)で7割を超え、女性の20代(66.7%)、男性の30代(62.5%)で6割を超えている。

職業別でみると、【不安を感じる】は、主婦(72.0%)で7割を超えて最も高く、事務職・専門技術職(64.8%)と労務職(62.2%)で6割を超えている。

図Ⅶ 1-1 食の安全に対する不安感（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



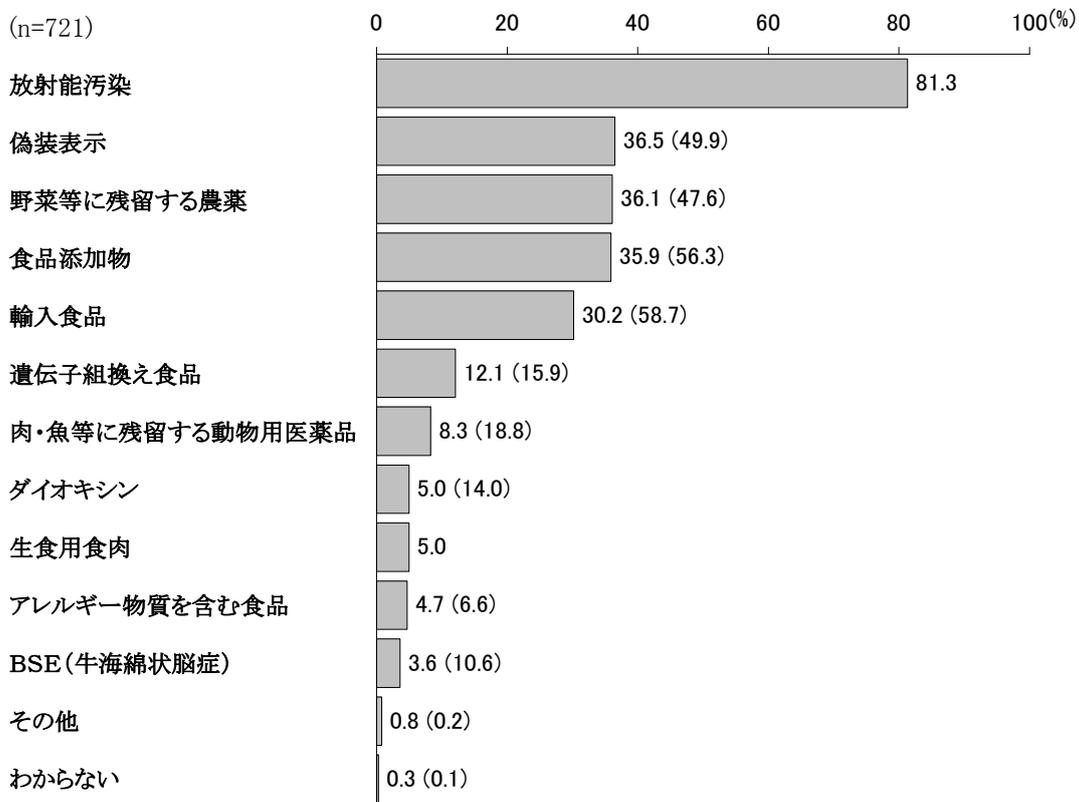
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 食の安全について不安に感じること

—「放射能汚染」が8割を超える—

(問1で、「とても不安を感じる」か「少し不安を感じる」と回答した方のみ)

問1-1 食の安全について、主に何について不安を感じますか。次の中から3つまで選んでください。



※ ()内の数値は、平成20年の調査結果

※「放射能汚染」と「生食用食肉」は今回調査から追加

食の安全に【不安を感じる】と回答した方に不安に感じることを聞いたところ、「放射能汚染」(81.3%)が8割を超えて最も高く、次いで、「偽装表示」(36.5%)、「野菜等に残留する農薬」(36.1%)、「食品添加物」(35.9%)、「輸入食品」(30.2%)が3割台で続いている。

前回調査と比べると、「偽装表示」、「野菜等に残留する農薬」、「肉・魚等に残留する動物用医薬品」、「ダイオキシン」が10ポイント前後、「食品添加物」が約20ポイント、「輸入食品」が約29ポイント減少している。

—「放射能汚染」は女性の30代で約9割—

地域別でみると、「放射能汚染」は、県北（86.7%）、県南（81.6%）、県西（80.8%）で8割を超えている。また、「偽装表示」は、県南（41.6%）、県西（43.8%）で4割を超えている。「野菜等に残留する農薬」は、鹿行（45.7%）で4割台半ば、県北（38.2%）と県央（40.7%）で4割前後となっている。

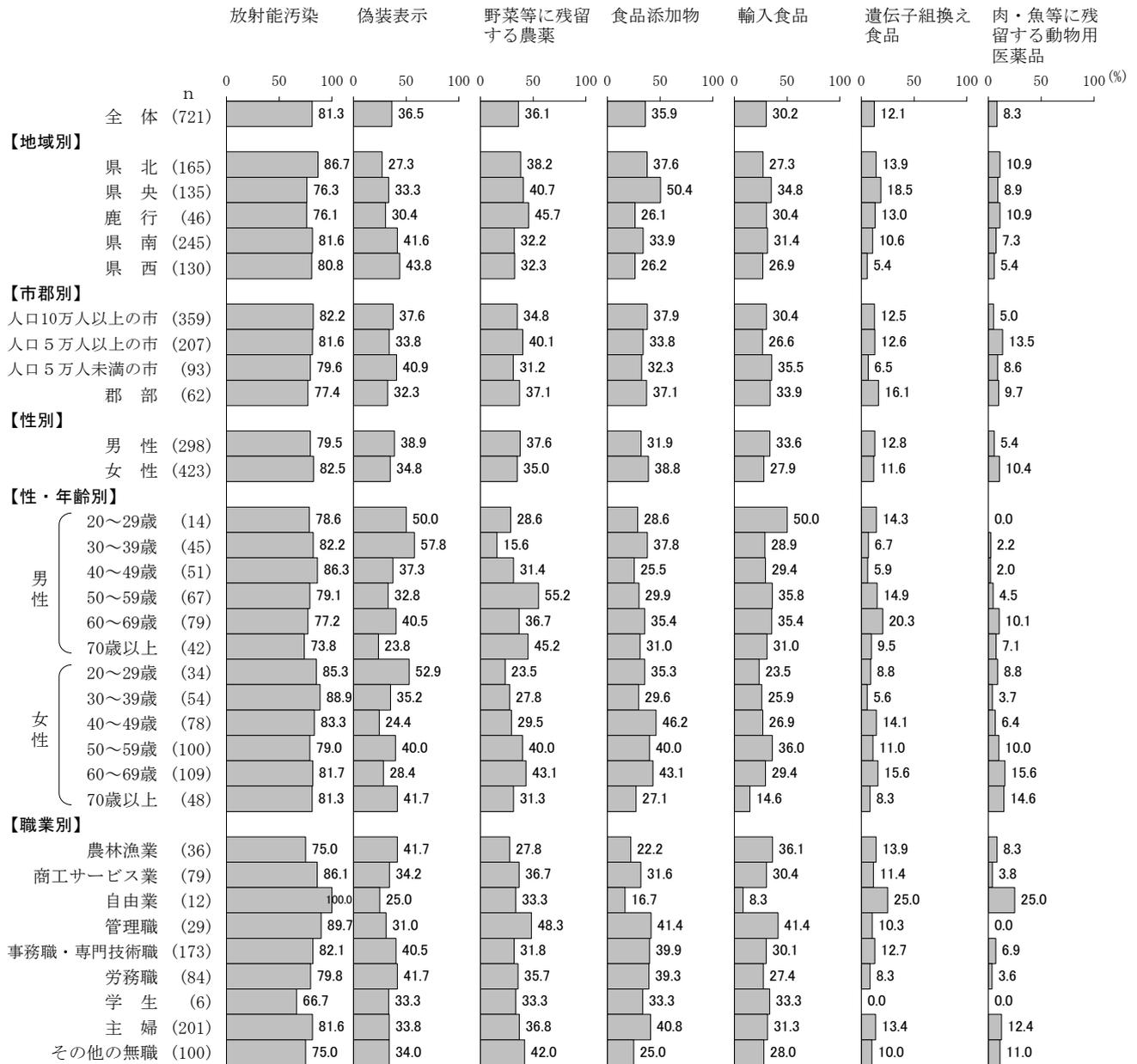
市郡別でみると、「放射能汚染」は、すべての層で8割前後となっている。また、「偽装表示」は、人口10万人以上の市（37.6%）と人口5万人未満の市（40.9%）で4割前後と高くなっている。「野菜等に残留する農薬」は、人口5万人以上の市（40.1%）と郡部（37.1%）で4割前後となっている。

性別でみると、「放射能汚染」は、男性（79.5%）、女性（82.5%）ともに8割前後と高くなっている。「偽装表示」は、男性（38.9%）が女性（34.8%）よりも約4ポイント高く、「食品添加物」は、女性（38.8%）が男性（31.9%）よりも約7ポイント高くなっている。また、「輸入食品」は、男性（33.6%）が女性（27.9%）よりも約6ポイント高く、「肉・魚等に残留する動物用医薬品」は、女性（10.4%）が男性（5.4%）よりも5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「放射能汚染」は、女性の30代（88.9%）で約9割と最も高く、男性の30代（82.2%）と40代（86.3%）、女性の20代（85.3%）と40代（83.3%）で8割台半ばと高くなっている。また、「偽装表示」は、男性の30代（57.8%）、女性の20代（52.9%）で5割を超えている。「野菜等に残留する農薬」は、男性の50代（55.2%）で5割台半ばと最も高くなっている。

職業別でみると、「放射能汚染」は、商工サービス業（86.1%）で8割台半ばと最も高く、事務職・専門技術職（82.1%）、労務職（79.8%）、主婦（81.6%）で8割前後となっている。また、「偽装表示」は、農林漁業（41.7%）、事務職・専門技術職（40.5%）、労務職（41.7%）で4割を超えている。「野菜等に残留する農薬」は、その他の無職（42.0%）で4割を超えて最も高く、農林漁業（27.8%）で最も低くなっている。

図Ⅶ 1-1-1 食の安全について不安に感じること
(地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別—上位7項目)

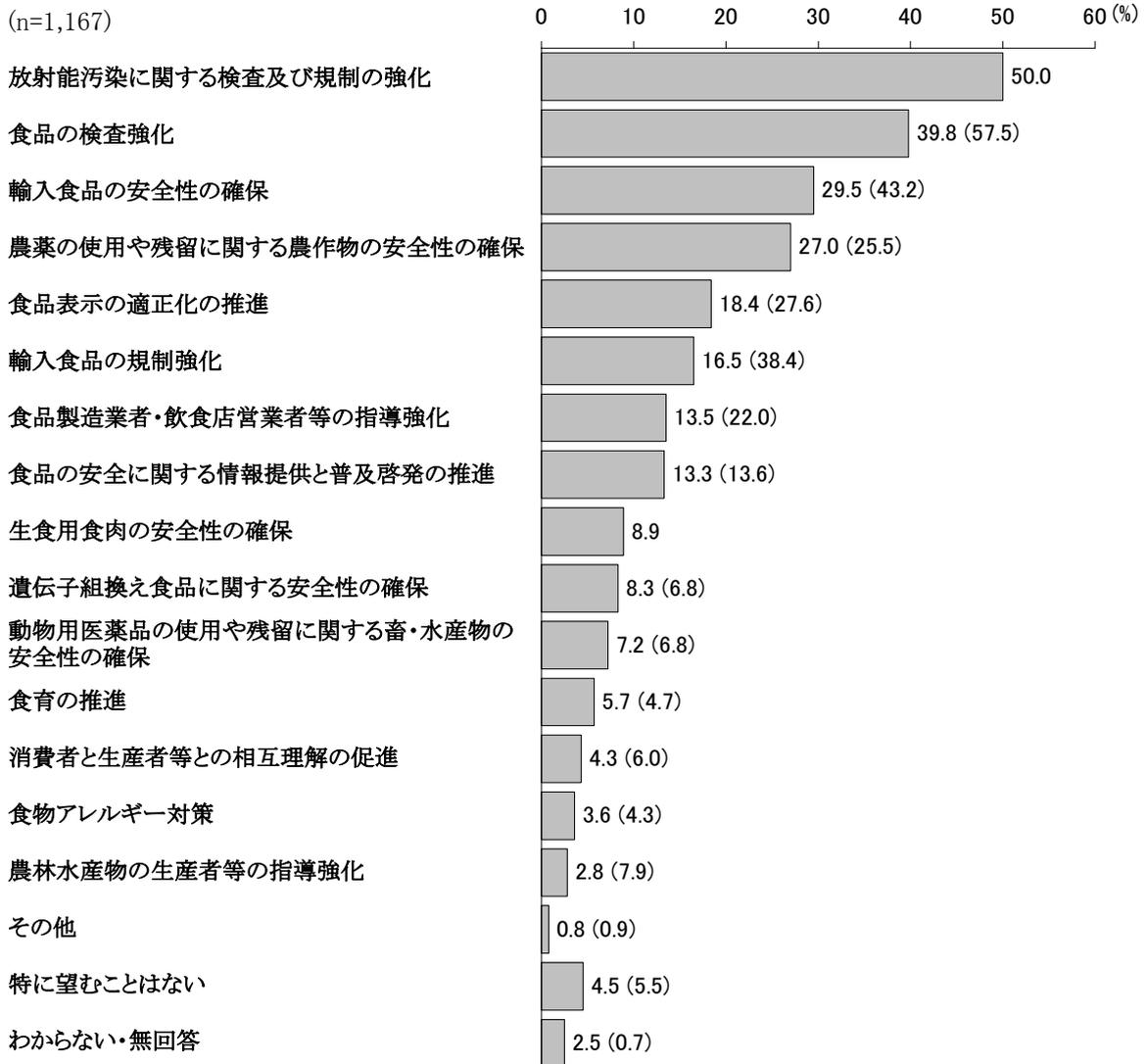


(注) 男性20～29歳，自由業，管理職，学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 県に望む食の安全対策

—「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」が半数—

問2 あなたは、県に対して、食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。
次の中から3つまで選んでください。



※ ()内の数値は、平成20年の調査結果

※「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」と「生食用食肉の安全性の確保」は今回調査から追加

食の安全への対策として県に望むこととしては、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」(50.0%)が半数で最も高く、次いで、「食品の検査強化」(39.8%)が約4割、「輸入食品の安全性の確保」(29.5%)、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」(27.0%)が約3割で続いている。

前回調査と比べると、「輸入食品の規制強化」が約22ポイント、「食品の検査強化」が約18ポイント、「輸入食品の安全性の確保」が約14ポイント、「食品表示の適正化の推進」、「食品製造業者・飲食店業者等の指導強化」が10ポイント前後減少している。

—「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は女性の30代で約7割—

地域別でみると、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は、鹿行（42.2%）以外の地域で、5割前後となっている。また、「食品の検査強化」は、鹿行（52.2%）で5割を超えて最も高く、県西（31.1%）で3割を超えて最も低くなっている。「輸入食品の安全性の確保」でも、鹿行（33.3%）で3割台半ばと最も高く、それ以外の地域では約3割となっている。

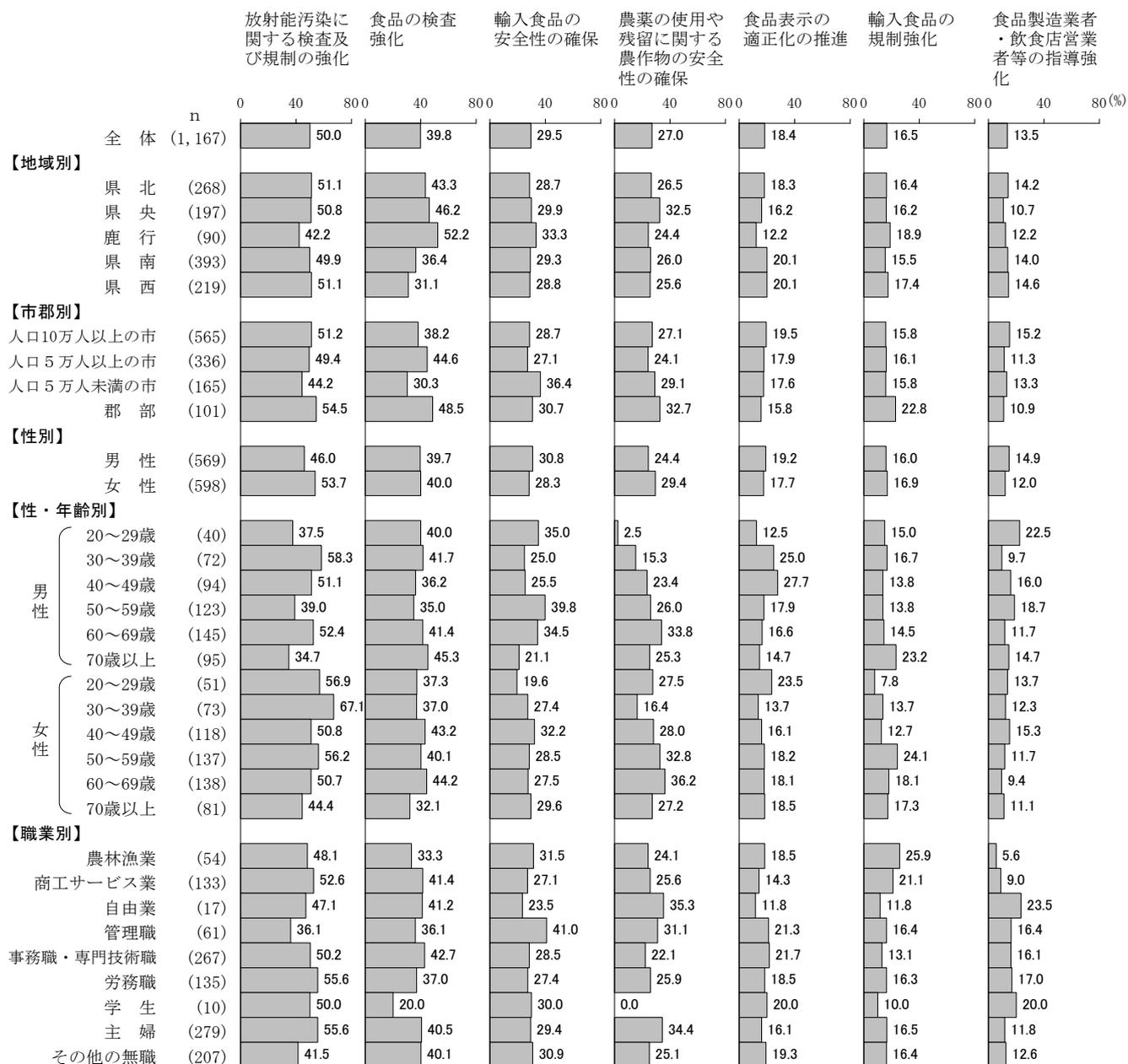
市郡別でみると、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は、郡部（54.5%）で5割台半ばと最も高く、人口10万人以上の市（51.2%）と人口5万人以上の市（49.4%）で5割前後となっている。また、「食品の検査強化」は、郡部（48.5%）と人口5万人以上の市（44.6%）で4割を超えている。「輸入食品の安全性の確保」は、人口5万人未満の市（36.4%）で3割台半ばと最も高くなっている。

性別でみると、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は、女性（53.7%）が男性（46.0%）よりも約8ポイント高く、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」でも、女性（29.4%）が男性（24.4%）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は、女性の30代（67.1%）で約7割と最も高く、男性の30代（58.3%）で約6割、女性の20代（56.9%）、50代（56.2%）で5割台半ばとなっている。「食品の検査強化」は、男性の70歳以上（45.3%）、女性の40代（43.2%）、女性の60代（44.2%）で4割台半ばとなっている。「輸入食品の安全性の確保」は、男性の20代（35.0%）、50代（39.8%）、60代（34.5%）、女性の40代（32.2%）で3割を超えている。

職業別でみると、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は、労務職（55.6%）と主婦（55.6%）で5割台半ば、農林漁業（48.1%）、商工サービス業（52.6%）、事務職・専門技術職（50.2%）で5割前後となっている。「食品の検査強化」は、商工サービス業（41.4%）、事務職・専門技術職（42.7%）、主婦（40.5%）、その他の無職（40.1%）で4割を超えている。「輸入食品の安全性の確保」は、管理職（41.0%）で4割を超えて最も高くなっている。

図Ⅶ 2-1 県に望む食の安全対策（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別—上位7項目）



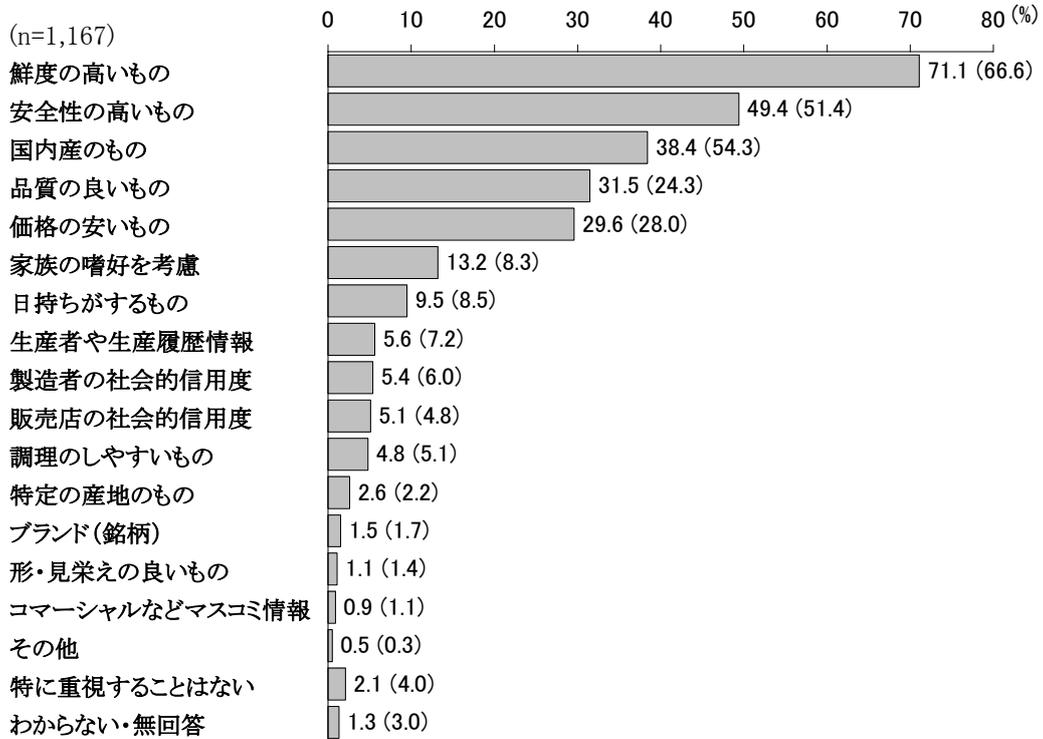
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

3. 生鮮食料品や加工品を購入するときに重視すること

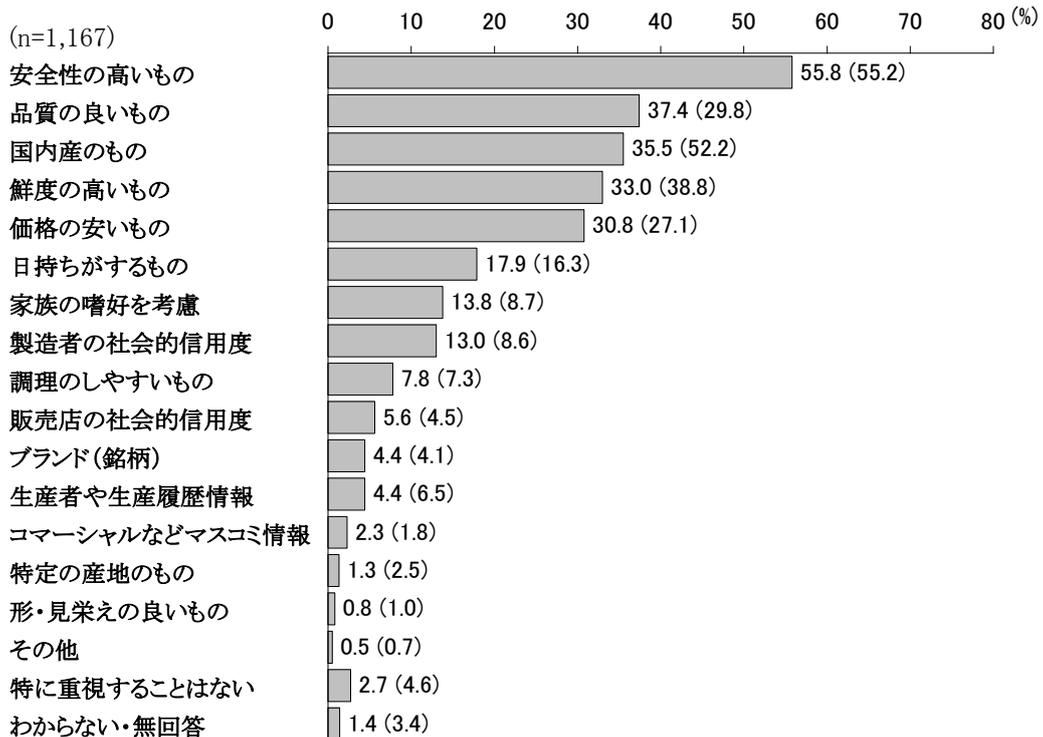
—生鮮食料品は「鮮度の高いもの」、加工品は「安全性の高いもの」が最も高い—

問3/問4 あなたは、生鮮食料品や加工品を購入するときに主に何を重視しますか。
次の中から3つまで選んでください。

<生鮮食料品（肉，魚，野菜など）>



<加工品>



※()内の数値は、平成20年の調査結果

生鮮食料品を購入するときに重視することとしては、「鮮度の高いもの」(71.1%)が7割を超えて最も高く、次いで、「安全性の高いもの」(49.4%)が約5割、「国内産のもの」(38.4%)、「品質の良いもの」(31.5%)が3割台で続いている。

前回調査と比べると、「鮮度の高いもの」が約5ポイント、「品質の良いもの」が約7ポイント、「家族の嗜好を考慮」が約5ポイント増加している。一方、「国内産のもの」は約16ポイント減少している。

生鮮食料品（肉，魚，野菜など）

—「国内産のもの」では女性が男性を約14ポイント上回る—

地域別でみると、「鮮度の高いもの」は、県央(76.6%)と鹿行(73.3%)で7割台半ば、県北(71.6%)、県南(68.2%)、県西(69.9%)で7割前後となっている。「安全性の高いもの」は、県央(56.9%)、県南(52.4%)で5割を超えている。「国内産のもの」は、鹿行(46.7%)で4割台半ばと最も高くなっている。

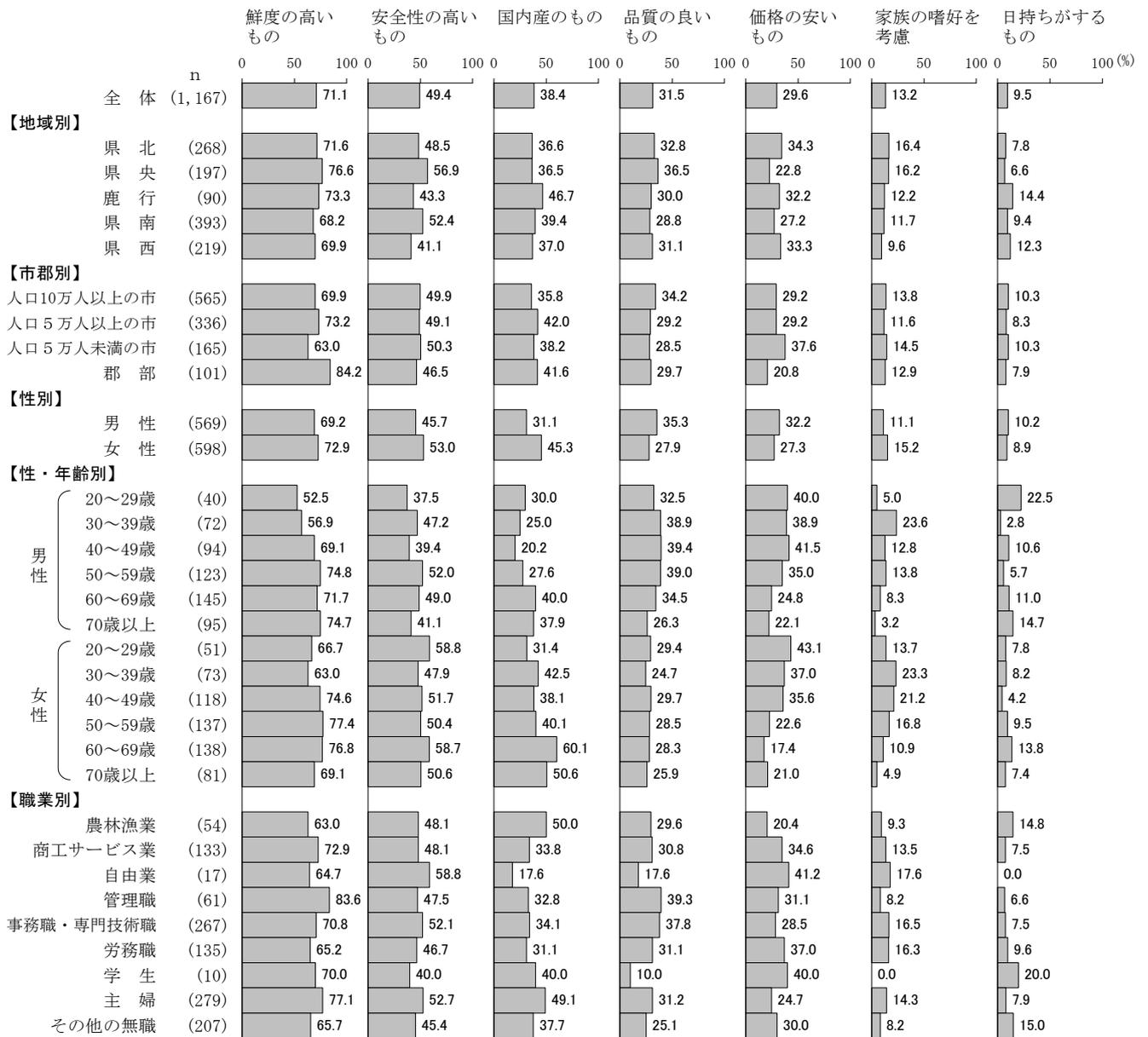
市郡別でみると、「鮮度の高いもの」は、郡部(84.2%)で8割台半ばと最も高く、人口5万人以上の市(73.2%)で7割台半ばとなっている。また、「安全性の高いもの」は、郡部(46.5%)以外の層で5割前後となっている。「国内産のもの」は、人口5万人以上の市(42.0%)、人口5万人未満の市(38.2%)、郡部(41.6%)で4割前後となっている。

性別でみると、「安全性の高いもの」は、女性(53.0%)が男性(45.7%)よりも約7ポイント高く、「国内産のもの」でも、女性(45.3%)が男性(31.1%)よりも約14ポイント高くなっている。一方、「品質の良いもの」は、男性(35.3%)が女性(27.9%)よりも約7ポイント、「価格の安いもの」でも、男性(32.2%)が女性(27.3%)よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「鮮度の高いもの」は、男性では、50代(74.8%)、60代(71.7%)、70歳以上(74.7%)で7割を超えており、女性では、40代(74.6%)、50代(77.4%)、60代(76.8%)で7割を超えているが、男性の20代(52.5%)と30代(56.9%)では5割台と低くなっている。「安全性の高いもの」は、女性の20代(58.8%)、60代(58.7%)で約6割となっている。「国内産のもの」は、女性の60代(60.1%)で約6割と最も高くなっている。

職業別でみると、「鮮度の高いもの」は、管理職(83.6%)で8割台半ばと最も高くなっている。「安全性の高いもの」は、農林漁業(48.1%)、商工サービス業(48.1%)、管理職(47.5%)、事務職・専門技術職(52.1%)、主婦(52.7%)で5割前後となっている。「国内産のもの」は、農林漁業(50.0%)、主婦(49.1%)で5割前後と高くなっている。

図Ⅶ 20-1 生鮮食料品を購入するときに重視すること
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

加工品

加工品については、「安全性の高いもの」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「品質の良いもの」(37.4%)、「国内産のもの」(35.5%)、「鮮度の高いもの」(33.0%)、「価格の安いもの」(30.8%)が3割台で続いている。

前回調査と比べると、「品質の良いもの」が約8ポイント、「家族の嗜好を考慮」が約5ポイント増加している。一方、「国内産のもの」が約17ポイント、「鮮度の高いもの」が約6ポイント減少している。

—「国内産のもの」は女性が男性を約13ポイント上回る—

地域別でみると、「安全性の高いもの」は、県央(65.0%)で6割台半ばと最も高くなっている。「品質の良いもの」でも、県央(44.2%)で4割台半ばと最も高く、「国内産のもの」は、県西(28.8%)以外の地域で3割台半ばを超えている。

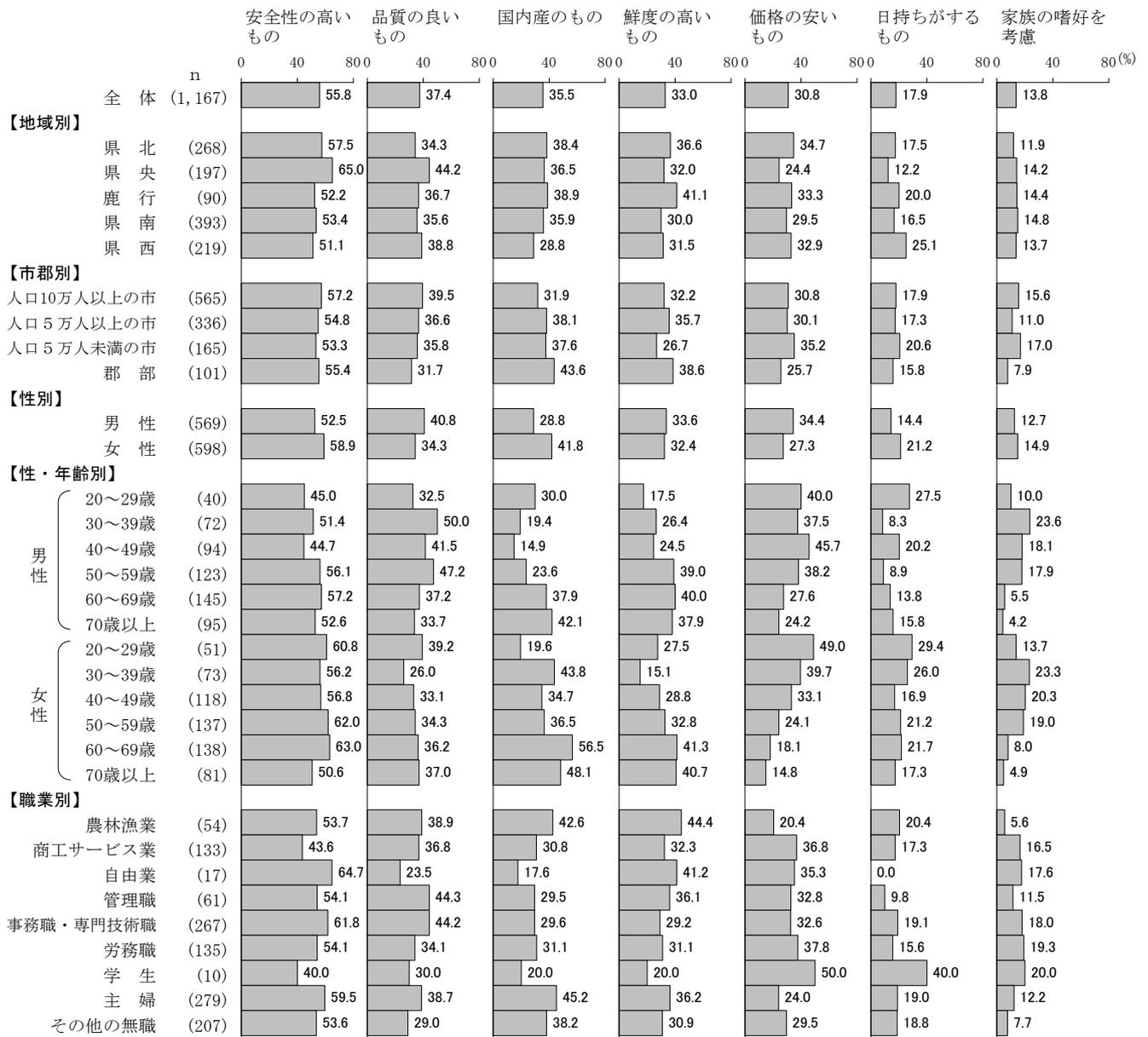
市郡別でみると、「安全性の高いもの」は、すべての層で5割を超えている。「品質の良いもの」は、郡部(31.7%)でそれ以外の層と比べて低くなっている。「国内産のもの」は、郡部(43.6%)で4割台半ばと最も高くなっている。

性別でみると、「安全性の高いもの」は、女性(58.9%)が男性(52.5%)よりも約6ポイント高く、「品質の良いもの」は、男性(40.8%)が女性(34.3%)よりも約7ポイント高くなっている。また、「国内産のもの」は、女性(41.8%)が男性(28.8%)よりも13ポイント高く、「価格の安いもの」は、男性(34.4%)が女性(27.3%)よりも約7ポイント、「日持ちがするもの」は、女性(21.2%)が男性(14.4%)よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「安全性の高いもの」は、女性の20代(60.8%)、50代(62.0%)、60代(63.0%)で6割を超えて高くなっている。「品質の良いもの」は、男性の30代(50.0%)と50代(47.2%)で約5割となっている。「国内産のもの」は、女性の60代(56.5%)で5割台半ばと最も高く、男性の70歳以上(42.1%)、女性の30代(43.8%)、70歳以上(48.1%)で4割台となっている。

職業別でみると、「安全性の高いもの」は、事務職・専門技術職(61.8%)、主婦(59.5%)で6割前後と高く、商工サービス業(43.6%)で4割台半ばと低くなっている。「品質の良いもの」は、管理職(44.3%)と事務職・専門技術職(44.2%)で4割台半ばと高くなっている。「国内産のもの」は、農林漁業(42.6%)と主婦(45.2%)で4割を超えている。

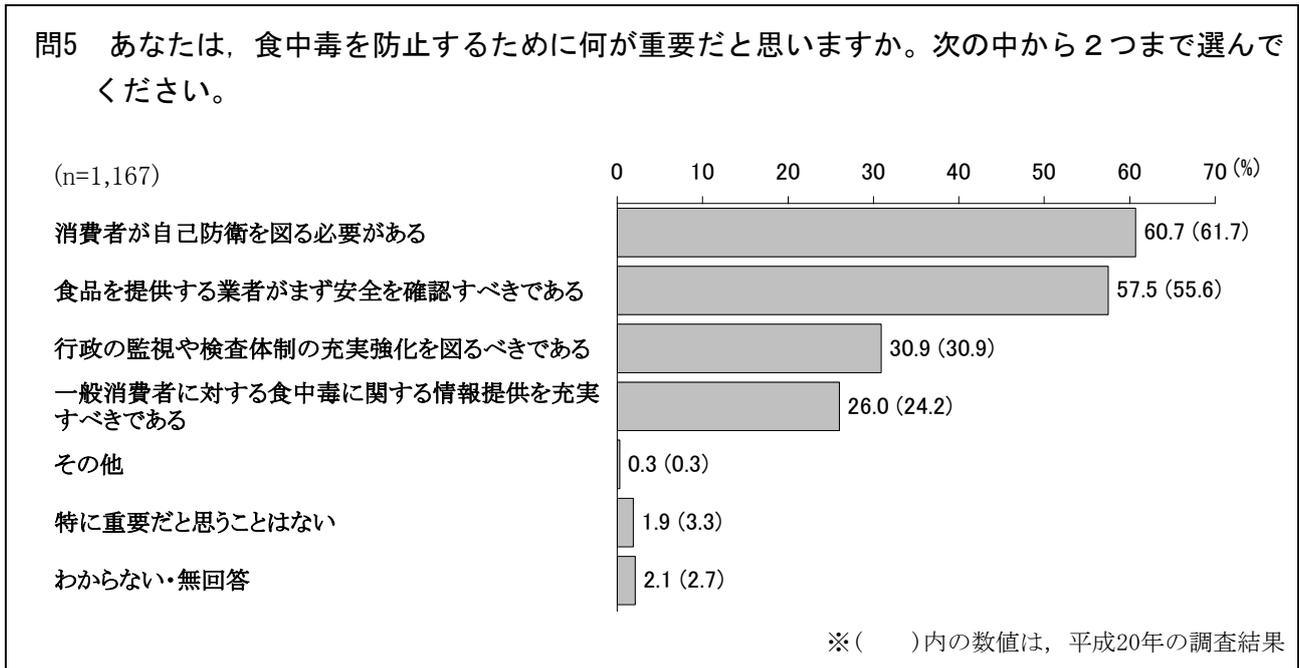
図Ⅶ 20-2 加工品を購入するときに重視すること
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

4. 食中毒防止のための重要事項

—「消費者が自己防衛を図る必要がある」と「食品を提供する業者がまず安全を確認すべきである」が6割前後—



食中毒を防止するために重要なこととしては、「消費者が自己防衛を図る必要がある」(60.7%)が約6割で最も高く、次いで、「食品を提供する業者がまず安全を確認すべきである」(57.5%)が約6割、「行政の監視や検査体制の充実強化を図るべきである」(30.9%)が3割台、「一般消費者に対する食中毒に関する情報提供を充実すべきである」(26.0%)が2割台半ばで続いている。

前回調査と比べると、特に大きな差はみられない。

—「消費者が自己防衛を図る必要がある」は郡部で約7割—

地域別でみると、「消費者が自己防衛を図る必要がある」は、県北(67.9%)、県央(65.5%)、鹿行(66.7%)で6割台半ばを超えている。「食品を提供する業者がまず安全を確認すべきである」は、鹿行(45.6%)以外の地域で6割前後となっている。「行政の監視や検査体制の充実強化を図るべきである」は、すべての地域で3割前後となっている。

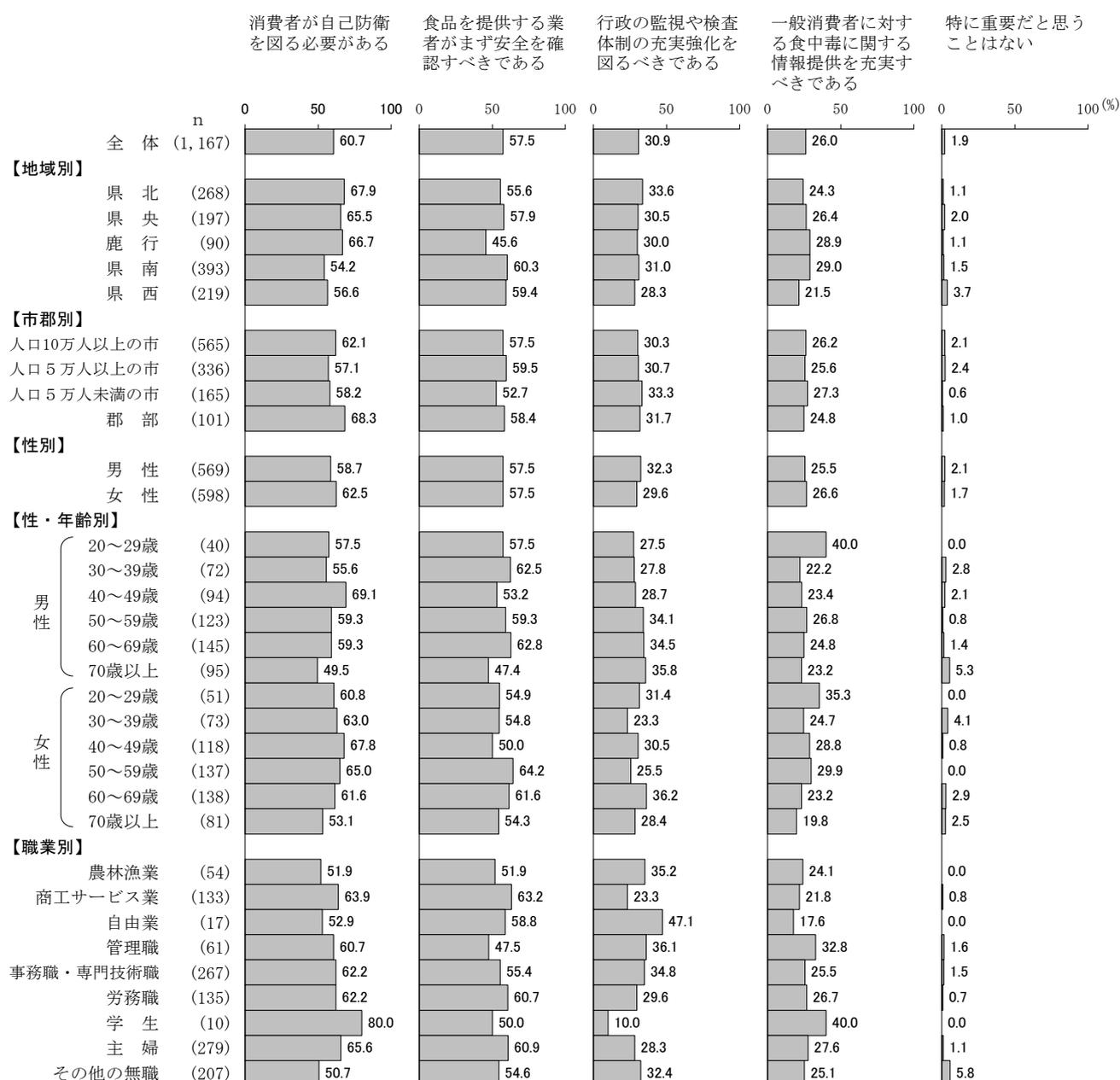
市郡別でみると、「消費者が自己防衛を図る必要がある」は、郡部(68.3%)で約7割と最も高く、それ以外の層では6割前後となっている。「食品を提供する業者がまず安全を確認すべきである」は、人口5万人未満の市(52.7%)以外の層で、約6割となっている。「行政の監視や検査体制の充実強化を図るべきである」は、すべての層で3割を超えている。

性別でみると、「消費者が自己防衛を図る必要がある」は、女性(62.5%)が男性(58.7%)よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「消費者が自己防衛を図る必要がある」は、男女の40代で約7割、女性の30代（63.0%）と50代（65.0%）で6割台半ば、女性の20代（60.8%）と60代（61.6%）で6割を超えて高くなっている。「食品を提供する業者がまず安全を確認すべきである」は、男性の30代（62.5%）と60代（62.8%），女性の50代（64.2%），60代（61.6%）で6割を超えて高くなっている。「行政の監視や検査体制の充実強化を図るべきである」は、男性の50代（34.1%），60代（34.5%），70歳以上（35.8%），女性の60代（36.2%）で3割台半ばとなっている。

職業別でみると、「消費者が自己防衛を図る必要がある」は、農林漁業（51.9%）とその他の無職（50.7%）以外の職業で，6割を超えて高くなっている。「食品を提供する事業者がまず安全を確認すべきである」は，商工サービス業（63.2%）で6割台半ばと最も高く，労務職（60.7%），主婦（60.9%）でも6割を超えて高くなっている。「行政の監視や検査体制の充実強化を図るべきである」は，農林漁業（35.2%），管理職（36.1%），事務職・専門技術職（34.8%）で3割台半ばと高くなっている。

図Ⅶ 5-1 食中毒防止のための重要事項（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。